

報告 1 ヴァリディア障害児職業学校+マルティンカッリオ学校

インクルージョンで育った子らは今

9月18日、朝7時。わたしたちのチャーターしたバスはヘルシンキの北35キロにあるヤルヴェンパー（Jarvenpaa）自治体にあるヴァリディア障害児職業学校に向かっている。

この職業学校は、1948年に設立された身体障害者協会（FPD）が保有している。生徒は600人、教職員は280人。120人の寮がある。背高のつぼの校長が校内や寮内をていねいに案内してくれた。



わたしたちはここから40キロほど南西にあるエスポー自治体でインクルーシブ教育にとりくんでいるオーロラ小学校で4人のダウン症などの知的障害児と出会った。

アーポくんやエーリカさんたち（写真下）とは、2年、4年、5年、6年生と授業参観し、その後、総合学校（小中学校：1年～9年生制）に進学し、教科別クラスに困惑していると聞いていた。

そして、彼や彼女は、希望すれば学べる自立した生活の準備のための「10年生」、さらに、この職業学校に進学していると知った。



障害児含めなんらかの特別支援がある職業学校は全国に7つあるという。

この学校には、アーポやエーリカなど「自立した生活の準備」を主とする1年コース（80人）軽度の障害のある職業を意識した1年コース（120人）があり、その後3年間、自動車整備、IT、ホームヘルパー、木工、倉庫管理など10種の職業コース（全体で400人）で学ぶ。

敷地内に隣接した学生寮の費用は無料。学校が終わった後には友だちとの自由な時間がある。それだ



けでなく「買い物や掃除の指導もしている」そうだ。また、数や国語の基礎的な学習も位置づけられている。

校長の話では、生徒一人に対して年間3万ユーロ（約400万円）が支給されている。卒業生の24%が一般の会社で働き、30%が支援された職場（保護雇用）に、24%は無職、その他は兵役につくものもいるのだそうだ。

彼や彼女とは都合で会えなかったけれど、単に「就職する」ことが目的でなく、働くことを大切にしたい学びの場で充実してくらしていることが感じられた。



今回の旅はかなりしつこい。オーロラ小学校のアーポやエーリカらが進学した総合学校（小中学校）のマルティンカッリオ学校を訪問し、7年と9年に障害児がいっしょに学ぶ特別クラスがあるということで、7年生の教科授業を参観した。

実践には強者ぞろいの研修ツアーメンバーの感想には、「バラバラで騒がしいだけでなく、学習がちゃんとされているのだろうか？」が多かった。けれど、フィンランドの学校の授業って、自分で意欲・感心を持って調べたものを発表したり、生徒の質問に教師が答えたり次の課題に導いたりする方法で、教科書をみっちり学ぶパターンではないので、ワイワイ、ガヤガヤは当然みたいな雰囲気がある。

ダウン症の彼女ら2人は、若いアシスタント教員にささえられながら、自分たちで調べた「月」のことを発表していた。

自分たちのイスに戻って来たときに、「やったね」とサインを出すとにっこり笑っていた。



他の授業では、調理実習や本格的なテキスタイル、木工、溶接、音楽では作曲するなど実学的だ。

ムーミン系のシモ校長と特別支援担当のサミ副校長に聞いた。

「オーロラ小学校を卒業した障害児の受け入れのためにを変えたか？」

校長＝数年は「グループ・インテグレーション」のクラスはなかった。

副校長＝正直準備できていなかった。アドバイスを受けて、

○障害児と教師の結びつきをコーディネートする教員を1名配置できた。その後正規教員を1名追加できてから体制が大きく変わった。現在障害児11人が学んでいる。

○しかし、一般の授業には参加できない。国語や算数のときは別の授業を行う。

○個人のカリキュラムは、特別支援の教員とアシスタント教員と親の三者でつくっている

○障害のない子にとってはすごくいいチャンスだと思う。

○障害児と健常児との差は大きい。友だちやソーシャルインテグレーションはなかなかできないことは親も理解している。

○特別支援は障害児だけでなく学習困難な子らの数学、フィンランド語や英語の学習の仕方を教えている。・とりわけ「読む力」「読解力」が弱く指導が増



えている。

「エスポー自治体にどんなことを要望しているか？」

校長＝与えられた予算の範囲でやっている。障害児学級が必要な子ならば障害児学級のある学校に転校をしてもらう。予算をくれないものはくれないから、やるべきことをやる。

「なぜ、障害児学級をつくらないのか」と質問が出そうになったが、はじめての訪問先なので、事実を事実として記録することにした。

◇◆◇

オーロラ小学校に彼らのいう「グループ・インテグレーション」クラスをつくったのはヘレストロム・マルティ校長だった。

彼は今、エスポー自治体の議員になっている。ぜひ、自治体のかかえる教育課題を聞きたいと「会食講義」を設定していたが、突然のキャンセル連絡。

けっこう前から約束していたのになあ・・・とおもいつつもそれもまた現実。特別支援に力をいれていたエスポー自治体もなかなか困難が多いのだろうと推察した。

その日の夜、8時過ぎ（日本時間19日深夜2時過ぎ）こちらが報じる「アーミー（戦争）法」がものすごい反対世論のなか、混乱の中で強行可決されたことをインターネットでみんなで聞いた。

（蘭部英夫）

